

● **お申し込み方法**
WEBにてお申し込みを受付けます。『PMシンポジウム2012』のご案内ページをご参照ください。
<http://www.pmaj.or.jp/sympo/2012/main.html>

● **参加申込み期限**
8月20日(月)〔早期割引申込み期限 7月31日(火)〕
※申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお勧めいたします。

● **お支払い方法**
お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受付データをお送りいたします。
早期割引適用の方は8月7日(火)までに、それ以外の方は8月27日(月)までに下記の口座にお振込みください。
また、お振込み時には、参加者名及び電子メールに記載されていますお申込み番号を必ずご記入ください。
※企業名でお振込みの場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせください。
※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもって申込みをお願いいたします。
※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。
※参加証は、参加費のご入金を確認させていただいた後、電子メールにてお送りさせていただきます。
※申込み後のキャンセル取扱いは、ホームページに記載しています。

口座名：三菱東京UFJ銀行 本店 普通 0737079
名義人：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
トクヒニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ

● **お問い合わせ**
日本プロジェクトマネジメント協会・事務局
E-mail : admi-sympo@pmaj.or.jp TEL.03-6234-0551 FAX.03-6234-0553

● **参加費** 注) 参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。
会費及びシンポ参加費の入金確認後、電子メールにて参加証をお送りいたします。

	9月6日(木)		9月7日(金)			
	シンポジウム		セミナー・ワークショップ			
	7/31まで早期割引	8/1以降(通常申込)	7/31まで早期割引		8/1以降(通常申込)	
			1セッション (2.5時間)	午前と午後の2セッション (5時間)	1セッション (2.5時間)	午前と午後の2セッション (5時間)
PMAJ個人正会員	7,000円	8,000円	8,000円	16,000円	9,000円	18,000円
PMAJ法人正会員の社員または職員 ENAA賛助法人会員の社員または職員 PMI会員及びITC協会会員	10,000円	11,000円	11,000円	22,000円	12,000円	24,000円
一般参加者	13,000円	14,000円	14,000円	28,000円	15,000円	30,000円
学 生	3,000円		10,000円	20,000円	11,000円	22,000円

※懇親会は無料です。

PMAJ(NPO法人日本プロジェクトマネジメント協会)

日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)は、P2Mの資格試験や講習会、PMシンポジウム、PMAJ会員のための例会(定例の勉強)、PM研修、国際交流機関誌(PMAJジャーナル)の発行等を通じて実践的PMの普及活動を行っています。このPMシンポジウムも会員活動の一環として、企画から運営まで会員のサポートで実施しています。

ACCESS 都営新宿線 船堀駅下車 徒歩1分



東京都江戸川区船堀 4-1-1 TEL.03-5676-2211

PMシンポジウム 2012

9月6日(木)・7日(金)
タワーホール船堀
江戸川区総合区民ホール

創る! 繋ぐ! 未来

主催：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)
後援：経済産業省 (予定)
一般財団法人エンジニアリング協会 (ENAA)

PMシンポジウム2012 開催のご案内

私たちは21世紀に入るのを機に新たな未来が始まることに期待を抱いていたのではないのでしょうか。しかし、10年以上が過ぎ、低迷する社会・経済に加え、東日本大震災と福島第一原発の事故や先の見えないヨーロッパの経済危機などの対策に追われ、自信を失いかけ、描いてきた明るい未来像に疑問を持ち始めているのではないのでしょうか？

世界経済の重心は急激に欧米先進国から大きく東アジアの新興国に移行しつつあり、加えて我が国においては、世界に類を見ない急激な高齢化と社会、企業、個人に迫る格差の拡大が進んでいます。いま、私たちは各レベルで目指すべき未来像を新たに描き、実践して行くことが求められています。

今回のシンポジウムでは、テーマを「創ろう！新たな未来」とし、希望の持てる未来を築くための知識や経験を交換し、新たな未来を創るきっかけをつくりたいと願いました。

この観点から、昨年好評であった特別企画には“未来創造トラック”を設けました。更に、多方面で顕著な活動を展開されている有識者にご経験を中心にご講演を依頼、また、セミナーやワークショップによる学習を通じて、目指すべき未来へ向かう原動力としての知識やヒントを得ていただければと、個々のテーマを選定いたしました。

参加の皆様とともに、未来像を考え、描き、創り上げる2日間になればと考えます。

各種ポイントの認定対象となる—— PMシンポジウム2012

■CPU ■PDU ■PM教育受講証明 ■知識ポイント

■CPU

発給ポイントは以下の通りです。(1時間当たり2ポイントが基本となります)

- 1日目(全時間出席の場合) : 10.5ポイント
- 2日目(1セッション・2.5時間) : 5ポイント
(2セッション・5時間) : 10ポイント

■PDU

発給ポイントは以下の通りです。

- 1日目: 5.25PDU
- 2日目(1セッション・2.5時間) : 2.5PDU
(2セッション・5時間) : 5PDU



PMI®へのPDU申請は必ず一括で行ってください。(1日目・2日目を分割するとエラーになります)
また、PMP®資格認定試験受験用受講証明書も発給致します。

■知識ポイント(ITコーディネータ)

ITコーディネータ資格者には、協賛により、1日目は6時間30分、2日目は、1セッションは2時間30分、2セッションは5時間(4時間当り1ポイント相当(上限なし))の「知識ポイント」が付与されます。

PMシンポジウム2012 基調講演

1日目(9月6日) 午前

基調講演1

10:00~

希望のチカラ



東京大学 社会科学研究所 教授 玄田 有史

希望とは何だろうか。2005年から行ってきた希望学(正式名称:希望の社会科学)では、希望(Hope)を次のように説明してきた。

Hope is a Wish for Something to Come True by Action.

希望は、強い「思い(wish)」、具体的な「何か(something)」、「実現(cometrue)」のための道筋、そして「行動(action)」の四本柱から成り立っている。希望が見つからないとすれば、四つの柱のどれかが欠けている。何が欠けているかを見つければ、希望を自分たちのチカラでつくり出すことはできるのだ。

希望を持っていない人には、様々な背景がある。なかでも重要なのが、人と人のつながりだ。震災後、しばしば耳にするようになった「絆」だ。絆がない人は、希望をみつけることもむずかしい。

しかし、ひとくちに絆といっても、その中身は多様だ。大事なものは、自分の知らない世界を知っていたり、自分のできないことができる、そんな人たちとの窮屈ではない「緩やかな絆」だ。この緩やかな絆を、社会学では「ウィーク・タイズ」と呼ぶ。被災地でも、復興に向けて確かな歩みを始めた人は、きまってウィーク・タイズを持っている。

プロジェクトを率いるのに必要なもの、ウィーク・タイズだ。緩やかな絆を通じ、それぞれが自分の希望に出会う。そしてプロジェクトにかかわる一人ひとりの希望が共有されたとき、そこに生まれるのが、プロジェクトの希望なのだ。

希望は、とらえどころのないものだが、しかし、未来を生きるために必要なものだ。そんな希望について一緒に考えてみたい。

【講演者略歴】玄田有史(げんだ・ゆうじ) 1964年島根県生まれ。東京大学経済学部卒業。経済学博士(大阪大学)。東京大学社会科学研究所教授。専門は労働経済学だが、2005年より希望学という新しい学問を始める。著書に『仕事のなかの曖昧な不安』(中央公論新社、サントリー学芸賞他)、『ジョブ・クリエイション』(日本経済新聞社、エコノミスト賞他)、『希望のつくり方』(岩波新書)他。東日本大震災復興構想会議専門委員会委員もつとめた。

基調講演2

11:05~

スーパーコンピュータ「京」

10ペタフロップスへの挑戦



富士通株式会社
次世代テクニカルコンピューティング開発本部 本部長 追永 勇次

理化学研究所と富士通が共同で開発しているスーパーコンピュータ「京*」は、世界で初めて10ペタフロップスを達成した。「京」は、最先端の製品開発、医療・新薬開発、防災・地球環境問題、新エネルギー・新材料開発や宇宙解明など、画期的な社会貢献と夢の実現が期待されている。

スーパーコンピュータは1960年代に世界で初めて開発されてから様々なベンダーによって革新的な技術開発が行われ、驚異的なスピードで性能が進化してきた。その中で「京」が目指したのは、特定の性能評価プログラムで10ペタフロップスを達成することだけではなく、多くのアプリケーションが「京」の上で開発され、そのアプリケーションを利用して様々な研究成果を得ることである。富士通は実用的なスーパーコンピュータを構築するため、消費電力や設置面積といった多くの課題を解決すると同時に10 PFLOPSを実現するという高い目標のもと開発に取り組んだ。

本講演ではスーパーコンピュータの歴史と技術を概観しながら、富士通で「京」の開発指揮を執ってきた立場から開発への取り組みについて紹介する。

*「京」は理化学研究所が2010年7月に決定した「次世代スーパーコンピュータ」の愛称です。

【講演者略歴】追永勇次(おいなが・ゆうじ) 1974年富士通株式会社入社。2000年コンピュータ事業本部第三コンピュータ事業部長、2003年サーバシステム事業本部技術部長、2007年次世代テクニカルコンピューティング開発本部技術部長兼システム開発統括部長、2011年より同開発本部長。大型汎用計算機およびスーパーコンピュータのアーキテクチャおよびハードウェアの開発に従事。現在、次の新しいスーパーコンピュータの開発を推進している。

9月6日(木) “展示コーナー” “参加者交流の場” “ドリンクサービス”

午前		午後							夕方
5F 大ホール・小ホール 2F 瑞雲・平安		ITトラック	P2Mトラック	エンジ・建設・公共トラック	製造トラック	金融・流通・サービストラック	PM人材育成トラック	未来創造トラック	2F 瑞雲
09:15	開場、受付開始								
09:45 ┆ 10:00	開会のご挨拶 「主催者挨拶」 「来賓ご挨拶」	[IT-1] プロジェクトを成功に導く超上流の勘どころ グローバル経営のための「経営とITの融合」 渡辺 貢成 (PMオフィス21) CfP	[PA-1] HIDAの開発途上国への人材育成支援事業の軌跡 開発途上国とのイコールパートナーシップを目指して 米田 裕之 (海外産業人材育成協会)	[EG-1] 東京スカイツリー® 世界一への挑戦 山本 秀樹 (日建設計)	[MS-1] 現場力を戦略へ 日本流ものづくりのITコンセプト: FOA 奥 雅春 (東京大学、玉川大学)	[FI-1] RFID超多用“自動化”センター開設 拘りの重要性、<7+2>の拘りの成果 長谷川 清秀 (洋服の青山)	[PS-1] 一流半のプロマネが考えるプロジェクトサポートシステム 「プロジェクトサポートシステム」と「プロマネサポートシステム」の違い 柴田 徹 (富士通)	[FC-1] カンボジアの子どもの笑顔のために カンブリア宮殿、NHKで話題の社会起業家が語る 村田 早耶香 (かものほしプロジェクト)	懇親会 講演者、広い層の参加者、シンポジウムチームメンバーとネットワークを広げる交流の場を提供いたします。 18:00 ┆ 19:30
10:00 ┆ 10:50	基調講演 1 希望のチカラ 東京大学 社会科学研究所 教授 玄田 有史	[IT-2] グローバル開発における課題とPM育成 「気が利くPM」を育成する方法とは? 滝本 雅之 (NTTデータ)	[PA-2] 経営イノベーションを成功に導くビジネス・プロデューサー 川勝 良昭 (新潟県立大学)	[EG-2] 変革を実現させるプログラムマネジメント プラントプロジェクトの事例から5つのポイントを紹介 中村 元哉 (IHI) CfP	[MS-2] “PM活動そのもの”の品質保証活動事例 プロジェクト運営を円滑化し、リスクを緩和する手法。その特徴・特性をまとめた。 前田 裕幸 (パナソニックSSインフラシステム)	[FI-2] 淘汰の40年に向けた企業戦略の方向性 酒販業の経営革新を例として 宮田 貞夫 (ハンブティ)	[PS-2] ベーコンエッグを食べながら考えたリーダーシップ マネジャーは参加ではなく献身しなければならない 小倉 広 (フェイスホールディングス)	[FC-2] 日本の未来とグローバル人材育成:大学の挑戦 立命館アジア太平洋大学創設の挑戦 坂本 和一 (立命館大学)	
11:05 ┆ 11:55	基調講演 2 スーパーコンピュータ「京」 富士通株式会社 次世代テクニカルコンピューティング開発本部 本部長 追永 勇次	[IT-3] オフィスでのドキュメント業務の変遷 多様化するオフィス環境への取り組み 町田 晴生 (キヤノン)	[PA-3] P2Mによる地域イノベーション創出 産学官民連携によるネットワーク化と人材育成 野崎 道哉 (中部産業地域活性化センター) 野村 武史 (中部P2M研究会)	[EG-3] 建設業の工事進行基準対応原価管理技術 これで会計監査に合格する内部統制環境ができる 本間 克三 (シーム) CfP	[MS-3] 反常識の型破り経営術 発想と差別化でローテクも勝てる! 山田 昭男 (未来工業)	[FI-3] 未来組織とシステム プロジェクトと人、そして新しい組織の仕組み 伊藤 健太郎 (アイシンク)	[PS-3] クラウド環境で必要な契約交渉スキル 長尾 清一 (ピーエム・コンセプト)	[FC-3] 横浜市が進める公民連携による海外都市技術協力事業(Y-PORT) 公民それぞれが持つ強みと戦略的アプローチによる統合 橋本 徹 (横浜市共創推進室)	
		[IT-4] CCPM適用によるプロジェクトマネジメントの革新 品質を落とさず工期を3割短縮するPM手法とは 松山 竜蔵 (大和ハウス工業) 中江 功 (富士通システムズウエスト)	[PA-4] 宇宙のリスクマネジメント 想定外の事故にどう備えるか 長谷川 義幸、中村 裕広 (宇宙航空研究開発機構) CfP	[EG-4] プログラムマネジメントとしての病院PFI 都立松沢病院PFIの事例紹介と病院PFIの可能性と課題 金光 健 (メディカルマネジメント松沢/日揮)		[FI-4] 経営のMVP-プロジェクトリーダーとしての社長の役割 潰してこい!と命じられた崖っぷちの会社の経営立て直して学んだこと 越智 正昭 (ハレックス)	[PS-4] 海外事業展開に必要なグローバル人材 契約マインド+技術=コントラクトエンジニアリング 大野 紳吾 (ベクトル) 梶浦 久尚 (大成建設) CfP	[FC-4] P2Mから見る持続可能な「環境未来都市」の提案 「社会」「経済」「環境」による「日本型まちづくり」のマネジメント 太田 鋼治 (日本工業大学大学院) CfP	

※小ホール、2F 瑞雲・平安は映像による中継となります。

※講演者および演題は都合により変更される場合があります。

9月7日(金) セミナー・ワークショップ全22プログラム開催 ～PM基礎/実践・PM人材教育・業種ごとのセミナー・ワークショップ～

午前(10:00~12:30)		午後(13:45~16:15)	
A-1	「総論賛成各論反対」を制すP2Mの技 情報をつなげて価値を生むビジネスモデルの創出 渡部 寿春 (イーストタスク)、内田 淳二 (水ing)、藤澤 正則 (デリア食品) ワークショップ P2M	B-1	PMBOK®ガイド第4版概要解説 PMBOK®ガイド第4版によるプロジェクトマネジメント知識体系の解説 高橋 政孝 (PFUアプリケーションズ) PMP
A-2	経営目標を実現するための超上流整理法 企画段階において戦略との整合性を如何に図るか 野村 典文 (伊藤忠テクノソリューションズ)、樋口 伸雄 (PM) ワークショップ	B-2	「場」の発見 暗黙要件を見つめる方法論 根上 勇一 (アンリツ)、板倉 稔 (イネーブル・ツリー) SiG
A-3	平時的PM力と有事のチーム力 何故プロジェクトにチームビルディングが必要なのか 松尾谷 徹 (法政大学)、松田 浩一 (富士通)、増田 礼子 (フェリカネットワークス) SiG	B-3	ICT分野への実践的P2M適用について P2Mハンドブックの解説 服部 雅臣 (富士通アドバンストソリューションズ) SiG
A-4	実践!なぜなぜ5回(階) 目から鱗が落ち、隠れた原因が見えた 小原 由紀夫 (富士通アドバンストエンジニアリング)、尾崎 康二 (富士通ミッションクリティカルシステムズ) SiG	B-4	PMのための“Dress for success” イメージマネジメント(印象管理)による自己開発方法 鶏内 敏江 (パーソナルコンサルティング)
A-5	アウトプットを最大にする「三つの秘策」 「坂の上の雲」から学ぶプログラムマネジメント 津曲 公二 (ロゴ)	B-5	「デザイン的思考」の必然性と素晴らしさ 頭で考えるばかりでなく、「身体(からだ)」で考えてみよう 山田 晃三 (GKデザイン総研広島)
A-6	グローバル競争下におけるBDメソッド P2Mスキルの発展形としての案件獲得の定石 北村 和彦 (シンプレイジャパン)	B-6	オープンソースがグローバル人材を育成 プロジェクト運営、品質管理、ビジネスから学ぶ 赤井 誠 (MKTインターナショナル)

午前(10:00~12:30)		午後(13:45~16:15)	
A-7	論語とプロジェクト 論語に学ぶプロジェクトの人間学 青柳 浩明 (安岡活学塾)、浅見 淳一 (プラネット)	B-7	“本音”の対話でチームを変える プロジェクト現場におけるアサーティブコミュニケーションのすすめ 丸山 奈緒子 (アイシンク)
A-8	「納品しない受託開発」にみるソフトウェア受託開発の未来 IT投資に対するソフトウェアの価値を最大化できるビジネスモデルとは 倉貫 義人 (ソニックガーデン)	B-8	アジャイルプロジェクトマネジメントの実際 “アジャイルプロジェクト”で迷走しないために 市谷 聡啓 (永和システムマネジメント)
A-9	そのとき行動できる人を創るPM 事例を読み解く 岡崎 博之 (システム運用コンサルタント)	B-9	プロジェクトを成功に導くゲームストーミング 短時間で創造的な成果を得るためには? 会議やプロジェクトを創造的にするための方法論 野村 恭彦 (国際大学GLOCOM)
A-10	部下や後輩を効率よく効果的に育てる 人を育て、自分も育ち、チーム全体の力を向上する 田中 淳子 (グローバル ナレッジ ネットワーク) ワークショップ	B-10	OJTを機能させる仕事の伝承力 仕事の勘所にある「暗黙知」の見える化と伝え方 依田 真門 (オイコス)
A-11	複雑な問題に挑むリーダーの思考と対話 本当はもっと創造的に解決できませんか!? 中村 文彦 (オープン・ウィル)、上田 雅美 (アネゴ企画) ワークショップ	B-11	グローバル化成功への組織戦略、人材戦略の本質を考える 組織イノベーションの4つの視点による 林 衛 (アイティイノベーション)

※両日とも申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお勧めいたします。
※講師および演題は都合により変更される場合があります。

1日目(9月6日) セッション概要-1

IT
トラ
ック

IT-1 プロジェクトを成功に導く超上流の勘どころ 13:10 グローバル経営のための「経営とITの融合」

PMオフィス21
代表 渡辺 貢成 

【セッション概要】1. ITプロジェクトの現状の問題点：①ITプロジェクトの3K問題が騒がれたが、2006年に経産省の示唆で、プロジェクト発注者は経営者が超上流(構想計画)で新しい経営への要求を提供することが求められた。②2008年の調査でグローバルレベルへの到達企業は23%程度である。
2. 対策：①グローバル社会の変化への認識、②P2Mの特長を活かしたOWモデルを活用した経営分析、「あるべき姿」としての「規模の経済」から「組合せの経済」×「スピードの経済」への転換のための対策を解説する。

【講演者略歴】日揮・石油精製(海外)原子力事業本部副本部長、有人宇宙システム(国際宇宙ステーション計画)専務、JPMF初代事務局長、P2Mガイドブック改定委員長、PMS講師、東北大MOT講師、北陸先端科学技術大学MOT講師、PMAJ理事、国際P2M学会会員

IT-2 グローバル開発における課題とPM育成 14:15 「気が利くPM」を育成する方法とは？

株式会社NTTデータ
技術開発本部 シニアエキスパート 滝本 雅之

【セッション概要】NTTデータでは、ITサービス分野の「グローバルトップ5」を目指し、国内外のグループ企業連携によるシナジー効果の創出や事業体制の強化のための各種施策を実施している。本セッションでは、まずNTTデータにおけるグローバル戦略を説明する。その上で、既に多くの実績のある情報システムのオフショア開発モデルでの課題を挙げ、解決施策の一事例として、オフショア先PMに対する育成プログラムの事例を紹介する。

【講演者略歴】2002年～生産性向上のための開発支援ツールの企画・開発および適用支援を担当。2006年～社内外の情報サービス人材の育成プログラム開発を担当。2009年～社内の開発プロセスの普及展開および国内外への適用支援および海外PMの育成を担当。現在に至る。

IT-3 オフィスでのドキュメント業務の変遷 15:35 多様化するオフィス環境への取り組み

キヤノン株式会社 映像事務機DS事業部
シニアプロジェクトマネージャー 町田 晴生

【セッション概要】オフィスでは“紙”ドキュメントを取り扱う業務は数多くある。キヤノンは、複合機、プリンタ、スキャナなどのデバイス、ならびにそれらに関連する様々なソフトウェアを提供することでオフィスでのドキュメント業務をサポートしてきた。昨年、技術進歩、環境変化に伴い、オフィスにおけるドキュメント業務もこれまで以上に大きく変革しようとしている。本講演では、オフィスにおけるドキュメント業務についてキヤノンのこれまでの取り組みについて紹介する。

【講演者略歴】1987年キヤノン株式会社入社。DTPソフトウェア開発、デバイス組み込みソフトウェア開発、ドキュメントソリューションシステム開発などに従事。ソフトウェアプログラマー、プロジェクトマネージャーなどを経て、2009年より現職。

IT-4 CCPM適用によるプロジェクトマネジメントの革新 16:40 品質を落とさず工期を3割短縮するPM手法とは

大和ハウス工業株式会社 次長 松山 竜蔵
株式会社富士通システムズ・ウエスト 部長 中江 功

【セッション概要】マネジメントを変えることで25%以上の期間短縮を実現したプロジェクト事例のご紹介を通し、CCPM(クリティカル・チェーン・プロジェクト・マネジメント)という新たなプロジェクトマネジメント手法の有用性と、如何に期間短縮と品質確保の両立を実現したかを説明します。何故、CCPM適用が上手くいったのか？どのように定着させたのか？その工夫や苦勞をユーザとベンダーのリーダーがそれぞれの生の声として事例をご紹介します。

【講演者略歴】松山 竜蔵：大和ハウス工業で本社・事業所の経理を歴任。2010年4月から会計分野へのSAP導入プロジェクトのプロジェクトリーダー。中江 功：富士通グループにて主に大規模ERP(SAP)導入に関するプロジェクトマネジメントを担務。(米国PMI®認定PMP®)

P2M
トラ
ック

PA-1 HIDAの開発途上国への人材育成支援事業の軌跡 13:10 開発途上国とのイコールパートナーシップを目指して

財団法人海外産業人材育成協会(HIDA)
理事 米田 裕之

【セッション概要】(財)海外産業人材育成協会は官民連携のもと、グローバル化時代の先駆けとして、開発途上国の産業人材育成を推進してきました。今まで約16万人の研修生を日本に受け入れ研修を実施してきました。これらの成果はアジア諸国を始めとする開発途上国の産業発展という形で結実し、研修生による同窓会が世界43か国70地域に設立され、日本との友好関係を増進しています。HIDAとしての事業戦略と具体策としての研修事業を紹介し、研修生が帰国後生んだ成果を、事例を中心に紹介し、今後注力するインフラ関係の事業もご紹介します。

【講演者略歴】海外技術者研修協会(AOTS)入職後、研修業務に従事。マニラ事務所長、海外部海外研修課長、横浜研修センター研修課長、横浜研修センター館長を経て、今年度より海外産業人材育成協会 理事。(2012年3月末、海外技術者研修協会と海外貿易開発協会は合併し(財)海外産業人材育成協会となる)

PA-2 経営イノベーションを成功に導く 14:15 ビジネス・プロデューサー

新潟県立大学
客員教授 川勝 良昭

【セッション概要】日本の構造的危機と世界激変の時代に生き残り、発展する企業は、安全・安定・安心な既知に軸足を置く改善・改良式の現状維持型でなく、不安全・不安定・不安な未知に軸足を置く夢挑戦式のイノベーション型である。経営に夢、革命的経営改革の決断、真のビジネス・プロデューサーを欠くイノベーションは成功しない。新商品・製品、新技術、新事業の新価値を創造(イノベーション)する理念論と方法論、夢の実現に汗と涙と血を喜んで流す人物(発掘、選別、役割、責任、評価、育成)を論述する。

【講演者略歴】新潟県立大学と中国政法大学の客員教授、経営コンサルタント、PMAJ理事等。以前～新日鐵テマパーク(TP)事業部長、セガTP事業部長、NTTデータ経営研究所顧問、岐阜県理事、新潟県参与、NY州立大、法政大、東大、亜細亜大、中央大の客員教授等。

PA-3 P2Mによる地域イノベーション創出 15:35 産学官民連携によるネットワーク化と人材育成

財団法人中部産業・地域活性化センター 野崎 道哉
中部P2M研究会 幹事 野村 武史

【セッション概要】地域の中核的な支援機関である公設研や大学等研究機関には、地方産業界の技術力向上のための支援が期待されているが、これらの研究機関の保有する研究技術シーズは各機関に分散し、県域を越えた組織横断的なネットワークの構築整備が課題である。課題対策のために、地域イノベーションネットワーク共同体形成の試み、研究開発の手法、産学連携モデルとしての市場対話型モデルについて紹介する。P2Mの地域研究会組織である、中部P2M研究会の活動を紹介します。

【講演者略歴】野崎 道哉：2008年3月弘前大学より博士(学術)取得。(財)中部産業・地域活性化センターで、産業連関表の研究に従事。野村 武史：中部P2M研究会 幹事。名古屋中堅ソフトウェアハウスにて、主に製造業向け業務ソフトの開発プロジェクトにPMとして従事。

PA-4 宇宙のリスクマネジメント 16:40 想定外の事故にどう備えるか

宇宙航空研究開発機構 理事 長谷川 義幸
宇宙航空研究開発機構 主任開発員 中村 裕広 

【セッション概要】宇宙飛行士の乗る宇宙船の安全設計は、類似の宇宙船や開発過程で発見された個々の不具合に都度対処するのではなく、不具合対処を設計の段階ですべて前提条件として考慮し、多重化または安全装置により、想定できる事故が起きないように制御することを基本としている。さらに、残存リスクは非常装置、訓練等により人間により対応する手法をとる。今回、有人宇宙機開発におけるリスクマネジメントの一端として、安全管理手法の概要を紹介する。

【講演者略歴】長谷川 義幸：昭和51年宇宙開発事業団入社。通信、放送、気象衛星システムの開発に従事。平成7年より国際宇宙ステーション開発に参加。プロマネを経て、平成23年8月より現職。中村 裕広：平成5年同入社。国際宇宙ステーション用実験装置の開発、安全審査に従事。

エン
ジ
ン
建
設
・
公
共
ト
ラ
ック

EG-1 東京スカイツリー® 13:10 世界一への挑戦

株式会社日建設計
プロジェクト開発部門 企画開発部長 山本 秀樹

【セッション概要】今年5/22に開業した高さ634m、世界一の自立式鉄塔「東京スカイツリー®」プロジェクトは、単なる地上デジタル放送用電波塔の建設事業というだけでなく、東京東部地域の活性化に向けた起爆剤となることを期待され、事業者と地元と行政が共同で誘致を果たした地元期待のプロジェクトであった。2004年から始まったこのプロジェクトの経緯や計画概要、特に東京の新たな景観を創るタワーのデザインや、実現化のためのエンジニアリング技術等を紹介する。

【講演者略歴】1964年福岡県生まれ。1989年九州大学大学院建築学専攻修了。2000年(株)日建設計入社。「飯田町アイガーデンエア(2003年、東京都)」、「ミッドランドスクエア(2004年、名古屋市)」、「東京スカイツリー®(2012年)」など大規模プロジェクトの都市計画、PM業務を担当。

EG-2 変革を実現させるプログラムマネジメント 14:15 プラントプロジェクトの事例から5つのポイントを紹介

株式会社IHJ
ボイラPJ統括部 課長 中村 元哉 

【セッション概要】より変化が激しくなるビジネス環境の中、変革の必要性を感じながらも、具体的な行動を起こせない、実効性が伴わないと言う企業も多いであろう。特に、プロジェクトマネジメントの高度化が必要な企業が、その基盤の変革に手を付けられずにいることが多い。プラントエンジニアリングの現場を舞台に、如何にしてプロジェクトマネジメントの機能を高め、事業撤退の危機を乗り越えたのか、その事例と共に、重要な5つのポイントを紹介する。

【講演者略歴】東京工業大学工学部卒業。株式会社IHJにおいて、国内外の発電プラントプロジェクトに携わる。R&D、エンジニアリング、プロジェクトマネジメントを経験し、現在はロジスティクスを統括。PMAJ認定PMLレジスタード。グローバル経営大学院MBA。

EG-3 建設業の工事進行基準対応原価管理技術 15:35 これで会計監査に合格する内部統制環境ができる

株式会社シーム
代表取締役 本間 克三 

【セッション概要】建設工事の工程表は今でもExcelで作成されていて頻繁な工程変更の管理ができません。紹介するのはPMツールの基本機能だけを使ってスケジュールとコストを一体管理するダイナミックなベースライン作成技術です。工事途中の進捗状況や利益を何時でも報告できます。会計理論的には制度会計の工事進行基準と管理会計の直接原価計算をPM画面上で一体的に表示する戦略会計の技術です。時間軸上を自由にシミュレーションできるPMツールの特徴を活かした現場と経営の共通基盤です。

【講演者略歴】・技術士(建設部門、総合監理部門)、PMP®・沖縄におけるPM技術の普及を目的に沖縄PM研究会を運営・工程管理技術支援の株式会社シーム代表・沖縄において建設業における工程計画、工程管理、原価管理に関する土木技術者向けのセミナーを実施

EG-4 プログラムマネジメントとしての病院PFI 16:40 都立松沢病院PFIの事例紹介と病院PFIの可能性と課題

株式会社メディカルマネジメント松沢
取締役 金光 健 (日揮株式会社 理事)

【セッション概要】病院は患者さんの治療・回復を旨とし多職種が働く複合体であり、それを支えるサービス、システムも多岐にわたる。本プロジェクトは病院PFIの中でもフルスペックに属するもので、設計・建設、運営サービス、維持管理、独立採算、医療機器備品調達、医療材料・薬剤の調達代行、エネルギー供給までが含まれる。課題は多くこれらのマネジメントはまさにプログラムマネジメントの概念が必要な領域である。本プロジェクトの概要をご紹介します。病院PFIの課題と今後の可能性について概説する。

【講演者略歴】日揮入社以来30年にわたりメディカル関連プロジェクトを担当。日揮株式会社理事、株式会社メディカルマネジメント松沢 取締役 統括部長。医薬経営コンサルタント、東京大学大学院 新領域創成科学研究科 プロジェクトマネジメント講座講師。

1日目(9月6日) セッション概要-II

製造トラック

MS-1 現場力を戦略へ 13:10 日本流ものづくりのITコンセプト:FOA

東京大学 経済学部MMRC 特任研究員
玉川大学 工学部 客員教授 奥 雅春

【セッション概要】

変化の激しいグローバル競争に生き残るためには「過渡期の常態化」を前提にした対応が必須である。この鍵となるのが、現場の生のイベントを「意味ありメッセージ」にして組織知(ノウハウ)として共有することであり、これが組織の俊敏さに不可欠な「気づき」を生み出す原動力になる。これを実践することから生まれたのがFOAIIである。

FOAIIは、ものづくり現場主導の「軽い」IT活用を可能にし、必要なアプリをアジャイルに開発する環境を提供する。

【講演者略歴】(株)プリテス 元取締役常務 生産および生産技術管理。プリテス社にて主に生産・生産技術畑を歩む。1999年から買取直後のファイアストン社に派遣、帰国後も20年に渡ってその立て直しに従事。その中で生まれたFOAを刷新し、新コンセプトとして提唱している。

MS-2 “PM活動そのもの”の品質保証活動事例 14:15 プロジェクト運営を円滑化し、リスクを緩和する手法。その特徴・特性をまとめた。

パナソニックSSインフラシステム株式会社
品質保証チーム 前田 裕幸

【セッション概要】

プロジェクト外の“第三者”(品質管理部門など)にとって、“進行中の”プロジェクトの実態/内情を適切に把握して、有効かつタイムリーに改善・立て直しに繋げる事は難しい。しかし、第三者でも、継続的なモニタリングと適切な助言を行うことで、「プロジェクト(マネジメント)のリアルタイムな改善」が可能となる。これにより“事業リスクの緩和”はもとより、PM職能の育成・認知を促進する可能性も確認されたため、その活動内容および特徴・特性を整理し、事例として報告する。

【講演者略歴】1990年:松下電器産業入社 カーナビの測位機能の開発(1996年より開発リーダー) 2000年:ETC料金システムの開発リーダー 2004年:所属事業部のCMM公式アセスメント受診を機に、SQA(ソフトウェア品質保証)担当、CMMI社内アセッサーとなる。

MS-3 反常識の型破り経営術 15:35 発想と差別化でローテクも勝てる!

未来工業株式会社
取締役相談役 山田 昭男

【セッション概要】

未来工業は創業以来、独創的な製品で高収益を維持してきたがその源泉は従業員の自律を促し、仕事や人生を楽しむことである。「ホウ・レン・ソウ禁止」、「仕事は8:30~16:45までで残業は禁止」、「年末・年始は20連休」、「本社に報告せずに支店開設」、「相談役だけだ相談するな」等である。今回のシンポジウムでは弊社の事例を紹介させていただき、日本の製造業の更なる発展・活性化のヒントを得ていただければ幸いである。

【講演者略歴】1931年生まれ。旧制大垣中学を卒業後、父が設立した「山田電線製造所」に入社。65年「未来工業」を設立し、代表取締役社長となる。91年名古屋証券取引所市場第2部に上場。岐阜県中小企業家同友会 会長、岐阜県電機工業会 会長などを歴任。2000年未来工業取締役相談役に就任。01年に勲五等双光旭日章を受賞。



金融・流通・サービストラック

FI-1 RFID超多用“自動化”センター開設 13:10 拘りの重要性、<7+2>の拘りの成果

洋服の青山
ITシステム部 執行役員 長谷川 清秀

【セッション概要】

2003年“洋服の青山”“TSC”の洋服を首都圏のお客さまへのご提案・サービスを高めるべく複合・自動化センター構想が開始。将来のために「新しい自動化機器システム」を準備する事を主軸に①品質 ②絶対単品管理 ③アソートの無人化 ~ ⑨原型実績の拘りを持って、協力会社9社と38ヶ月間の苦闘を行った。実証用機器を作成し実験を繰り返したが人知には限界があり、幾多の難問奇問に遭遇。開設以降、快調に稼動中。

【講演者略歴】1971年(株)日本総合研究所の前身の(株)日本情報サービスに入社。2002年青山商事(株)に転じ、総合企画部長、ITシステム部長を勤める。システム分野に40年余り勤務、最注力分野は①小売 ②省人・自動 ③無線 ④商品管理 ⑤イメージ処理。

FI-2 淘汰の40年に向けた企業戦略の方向性 14:15 酒販業の経営革新を例として

株式会社 ハンプティ
代表取締役 宮田 貞夫

【セッション概要】

これから始まる“淘汰の40年”に生き残る企業の基本戦略は、“商品力強化”と“独自ビジネス(ブルーオーシャン)の開拓”である。企業はこの戦略テーマのもと、“従来の常識にとらわれない柔軟な発想”を持ち、厳しい環境下で“しなやかな経営”を心掛ける必要がある。また、“しなやかな経営”を続けるには、変化を継続できるよう“小さなビジネス”でなければならない。経営革新実施の留意点は、成功するまで「仮説→実施→検証」のサイクルを繰り返すことである。

【講演者略歴】大手証券会社で財務部と海外駐在(英国現法の共同財務部長)を中心に約20年間勤務後、1999年に独立。(株)ハンプティの代表取締役として経営とITのコンサルティングを行うかたわら、大学や短大の非常勤講師、上場予定企業の社外取締役・監査役等に就任している。

FI-3 未来組織とシステム 15:35 プロジェクトと人、そして新しい組織の仕組み

アイシンク株式会社
代表取締役 伊藤 健太郎

【セッション概要】

直線的な思考や方向では組織が存続できない社会環境の中に私たちはいます。組織はどのような未来に向かって進んでいくのがいいのでしょうか。プロジェクト運営、プロジェクト成功に必要なマネジャーの要件、PMOへの期待、組織文化、教育システム、グローバル化などの切り口から組織が抱える課題と目指す方向を検討していきます。安直な解決策ではなく、直面する問題を明確にし、問題に立ち向かうための最初のステップを目指します。

【講演者略歴】NKK(現JFE)で船舶用エンジンの製造、環境プラントの国内外のプロジェクトに従事。2000年にプロジェクトマネジャー育成や診断などのPMIに関する総合サービスを提供するアイシンク株式会社設立。著書は『狩猟型プロジェクトマネジャーの哲学』(生産性出版)等。

FI-4 経営のMVP-プロジェクトリーダーとしての社長の役割 16:40 潰れてこいと命じられた崖っぷちの会社の経営立て直しで学んだこと

株式会社ハレックス
代表取締役社長 越智 正昭

【セッション概要】

ITシステムの営業・開発を担当していた演者が突然異業種である気象情報会社の経営立て直しを命ぜられ、その経営立て直しを通して、経営の本質とは、変転する市場とお客様の要求を見定めて“事業の定義”を書き換えること、すなわち、会社を作り変えることであるという基本に行きついた経験談を語ります。特に、会社の経営をプロジェクトとして捉えた時、そのプロジェクトのリーダーである社長がどうあるべきかという姿についても、実経験を通した気付きの中から語ります。

【講演者略歴】1978年日本電信電話公社技術局入社。技術局伝送部門、NTTデータ第一公共システム事業本部サービスインテグレーションBU長、気象情報会社株式会社ハレックス代表取締役社長を兼務、営業企画部長を経て、2009年6月NTTデータ退職、ハレックス代表取締役社長専任、ITCA事業戦略委員会委員。

PM人材育成トラック

PS-1 一流半のプロマネが考えるプロジェクトサポートシステム 13:10 「プロジェクトサポートシステム」と「プロマネサポートシステム」の違い

富士通株式会社
共通技術本部 本部長 柴田 徹

【セッション概要】

日本のプロマネは優秀だと言われる反面、属人的という指摘もある。属人性を排除するため標準化やツール化がなされてきた。富士通にもProjectWEBというツールがあるが、それも一部機能の活用に留まっている。3年前にツール提供元の部門長となり、属人性を軽減するための仕組みとはどうあるべきか、一から取り組み、3年をかけて形にした。今回はこの経験を元に、プロマネをサポートするシステムとはどうあるべきかについて実装例をお話する。

【講演者略歴】1982年、富士通に入社。証券、金融業で大規模システム開発に従事。97年、大規模投資信託システムをフルオープンで開発。03年、金融先物取引システムを海外取引所と組み稼働させる。09年より現職。ソフトウェア・サービス開発の新たな体系創造を目指している。

PS-2 ベーコンエッグを食べながら考えたリーダーシップ 14:15 マネジャーは参加ではなく献身しなければならない

株式会社フェイスホールディングス
代表取締役 小倉 広

【セッション概要】

「ベーコンエッグにおいてニワトリは参加し、豚は献身している」「マネジャーは参加ではなく献身しなければならない」。ミンツバーグの言葉である。さて、僕たちは「参加している」のだろうか「献身している」のだろうか? リーダーの役割、リーダーシップの発揮方法、コミュニケーションなどを具体例を交えながら紹介していく。
●部下のレベルが上司のレベル ●「伝えたのに…」は何もしていないと同じこと ●何を言ったかではなく誰が言ったかが人の心を動かす など

【講演者略歴】大学卒業後、リクルート入社。企画室、編集部、組織人事コンサルティング室課長、公開前後のベンチャー企業数社の取締役を経て2003年より現職。企業の組織づくり、人材育成を支援する。著書「任せる技術」「やりきる技術」(日本経済新聞出版社)など26冊。

PS-3 クラウド環境に必要な契約交渉スキル 15:35

株式会社ピーエム・コンセプト
代表取締役社長 長尾 清一

【セッション概要】

クラウド活用が本格化してきた。それに伴い開発の超短納期化、クラウドの制約、クラウド化範囲の決定等、従来型開発を超える問題の解決を迫られる。この環境下、PMは多数ステークホルダー間の利害を調整し、顧客のIT戦略に影響を与える交渉力が求められる。特に、保守運用面の重要性が増すクラウドでは開発前から「サービスを売っていく」視点で契約交渉を行わないとプロジェクトは失敗する。本セミナーでは、この契約の交渉ポイントと交渉担当者の必須スキルについて述べる。

【講演者略歴】UCバークレー校ビジネススクール卒MBA取得。大規模プロジェクトを15年間指揮監督。93年よりPM専門の米国企業アジア総責任者として7ヶ国でPM研修を実施。93年PMP®取得。97年(株)PMコンセプト設立。近著に「問題プロジェクトの火消し術」「ベンダー・マネジメントの極意」。

PS-4 海外事業展開に必要なグローバル人材 16:40 契約マインド+技術=コントラクトエンジニアリング

ベクテル 大野 紳吾
大成建設株式会社 梶浦 久尚

【セッション概要】

海外プロジェクトで日々発生する予想外の事態に、適切に対応するにはどのような能力が必要か? そのような能力は、経験によってしか培うことができないのか、それとも学ぶことで習得できる知識なのか? 『契約マネジメント』は、欧米の大学では建設工学の必須学科であり、専門的な職業や資格が存在する。日本人エンジニアには取っ付きにくい、この知識領域が、海外事業展開成功の最大の鍵であることを、実際のプロジェクト事例を交えて発表する。

【講演者略歴】大野 紳吾: 京都大学工学部建築学科卒業、IE Business School MBA修了。一級建築士、SixSigma グリーンベルト。梶浦 久尚: 東京工業大学建築学科卒業、情報環境学修了。King's College London修了。一級建築士、Chartered Civil Engineer、Fellowship Chartered Arbitrator。

1日目(9月6日) セッション概要-III

FC-1 カンボジアの子ども達の笑顔のために 13:10 カンブリア宮殿、NHKで話題の社会起業家が語る

特定非営利活動法人かものほしプロジェクト
理事長 村田 早耶香

【セッション概要】

児童買春の問題を解決するために10年間活動してきた。リーダーシップをうまく取れずに悩み、壁に何度もぶち当たった時期もあったが、その中でリーダーシップのとり方は一つではないことに気がつく。自分は誰よりも強い思いを持っている、それが自分の代表としての資質であり、自分に足りない部分はそれを持っている人の力を借りればよいのである。模索しながらも自分なりのリーダーシップを確立させ、売られる子どもの問題のために取り組んでいる活動内容を紹介する。

【講演者略歴】子どもたちが無理やり体を売られている問題があるという現実を19歳で知り、この問題を解決するために立ち上がった。2001年には世界会議で日本の若者代表として参加し、2002年に仲間と共に、かものほしプロジェクトを創業。今年で10周年を迎える。

FC-3 横浜市が進める公民連携による海外都市技術協力事業(Y-PORT) 15:35 公民それぞれが持つ強みと戦略的アプローチによる統合

横浜市共創推進室
共創推進担当課長 橋本 徹

【セッション概要】

横浜市には、150年にわたる急速な都市発展の中で、震災、戦災、戦後の都市拡大、人口増大、公害問題などを、市民、企業との協力のもと、独自の解決策を創出し、乗り越えてきた歴史がある。それらの知見を、公民連携の枠組みの中で、イノベーションの源泉とし、都市拡大が大きな政策的な課題となっている新興国に提供しようとする事業を開始した。本講演では、Y-PORT事業の背景にあるイノベーションの思想と、戦略的なプログラムアプローチを取り上げる。

【講演者略歴】東京大学工学部卒業後、アジア工科大学、マサチューセッツ工科大学(MIT)などで、都市計画の研究を行う。1994年からは、世界銀行にて、都市インフラの専門官として、東南アジアをフィールドとして活動。2008年に横浜市に入庁、Y-PORT事業の立ち上げから関わる。

FC-2 日本の未来とグローバル人材育成:大学の挑戦 14:15 立命館アジア太平洋大学創設の挑戦

立命館大学名誉教授
立命館アジア太平洋大学初代学長 坂本 和一

【セッション概要】

今日、わが国では社会と企業のグローバル化を担う人材の育成が緊急課題であり、外国から未だ「鎖国状態」といわれる日本の大学の改革が急務である。このためには、入学時期の変更などではなく、なによりも「日本語の壁」を打破することが必要である。この講演は、わが国で最初に日本語・英語2本立ての教育システムを採用し、留学生を学生の半数として、2000年4月に開設された立命館アジア太平洋大学(APU)の経験を通して、本格的なグローバル人材育成の挑戦を紹介する。

【講演者略歴】1939年生まれ。68年京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得後、立命館大学経済学部にて、78年より教授。94~04年立命館副総長。2000~03年の間、立命館アジア太平洋大学初代学長。現在、立命館大学および立命館アジア太平洋大学名誉教授。

FC-4 P2Mから見る持続可能な「環境未来都市」の提案 16:40 「社会」「経済」「環境」による「日本型まちづくり」のマネジメント

日本工業大学大学院
客員教授 太田 鋼治 

【セッション概要】

「環境未来都市」構想は、2010年6月に「新成長戦略」の国家戦略プロジェクトとして、「環境・超高齢化対応等の課題に対応し、人間中心の新たな価値を創造する都市」の実現に向けた取り組みを通じ、世界に類のない成功事例を創出し、都市・地域の活性化と持続可能な経済社会の実現するものとして注目されている。本件は「環境未来都市」構想から、このプロジェクト戦略について説明するとともに、P2Mの観点から、日本の技術と融合した全体最適性のある「未来都市」を提案する。

【講演者略歴】芝浦工業大学大学院卒/ロンドン大学院卒。大手建設会社にて国内外の建設を担当した後、現在JICAにて「国際建設工事/契約」を担当し、日本工業大学大学院(MOT)にて「建設系マネジメント」を指導する。一級建築士、一級建築施工管理技士、博士(工学)、建築/工学修士。



展示コーナー

出展企業名	出展概要
IFSジャパン株式会社	EPC業界はじめプロジェクト型業務向けのグローバル製品を実例を交えてご紹介します。
ITエンジニアリング株式会社	「PRIMAVERA」を中心としたEPMシステム構築の実例・機能等をご紹介いたします。
プラネット株式会社	プロジェクトマネジメント分野のリーダーとして、組織・個人のお客様に「PM標準10のステップ」「PMP®受験対策コース」「アドバンスコース」などの高品質セミナーをご紹介します。
アイシンク株式会社	PM研修・PM力診断・個人向け公開講座など、プロジェクトを成功に導く効果的なサービスのご紹介。
日揮情報システム株式会社	IT企業、エンジニアリング企業向けのプロジェクトマネジメントサービス・事例のご紹介。
日本プロジェクトマネジメント協会	PMAJが実施する講座、セミナー、出版物等のご案内および部会、SIG、研究会等の活動のご紹介とご参加案内。



参加者交流の場

このコーナーでは、参加者に「共有」の場を提供することにより、新しい考えや気づきを生み出すきっかけを作ることを目的としています。どうぞ積極的にご参加ください。

参加方法は、4つあります。

- その1 コメントを書いた付箋紙を貼る**

テーマごとに模造紙を貼り付けたボードを用意しています。付箋紙にご自身の意見や感想を自由に書いて貼り付けてください。他の人が貼り付けている意見に対する感想も歓迎です。
- その2 Twitterでつぶやく (ハッシュタグ #pm_cafe)**

付箋紙の代わりにつぶやいても構いません。スタッフが良いと思った意見は付箋紙に書いて貼り付けます。また、反対に付箋紙に書かれた内容をつぶやいても良いでしょう。

- その3 話し合う**

模造紙の前でテーマに関する会話を行います。立ったままで気軽に参加してください。
- その4 眺める、聴く**

意見を書いたり、対話するのが苦手という方はボードに貼ってある意見を眺めたり、ボードの前で行われている対話を聴くだけでも構いません。



ドリンクコーナー

2日目(9月7日午前10:00～)セッション概要-1

A-1 「総論賛成各論反対」を制すP2Mの技 情報をつなげて価値を生むビジネスモデルの創出

イースタスク株式会社 渡部 寿春
水ing株式会社 内田 淳二
デリア食品株式会社 藤澤 正則

ワークショップ P2M

【セミナーの狙い】

このセッションは、ケーススタディーを使ったワークショップです。みなさんがPMや経営者として直面する課題に対応する手法と活用方法を学びます。激変する環境変化に対応するには、総論賛成各論反対の正しいマネジメントが重要です。総論と各論の乖離を統合するP2Mの活用で事業価値を生む。あなたの積極的な参加が第一歩です。

【セミナーコンテンツ】

- ・ビジョンの共有
- ・当事者意識の重要性
- ・みんな違ってみんな良い
- ・矛盾の統合で価値を生む
- ・ありのままの姿とあるべき姿の分析手法
- ・P2M活用のごたえ
- ・グループディスカッション

※PMシンポジウム初日、IT-「プロジェクトを成功に導く超上流の勘どころ」と繋がる内容

【受講をお勧めする方】

P2Mの応用に関心のある方。PMR資格の受験を検討されている方。IT戦略/ITプロジェクト関係者。PM資格者。

【講師略歴】渡部 寿春：主に金融機関の情報システム開発プロジェクトに従事。MBA(英国アバテイ大学)、PMR、PMシンポジウム企画。
内田 淳二：エンジニアリング専門にてPM経験を積む。現在、(株)水ingの内部統制部門にて輸出管理全般を担当。PMR。
藤澤 正則：キユーピー(株)入社。生産、設備工場計画業務を経験後、CVSの組合へ出向し、しくみづくりに関わる。現在、サラダ惣菜事業のしくみづくりに関わっている。PMR。

A-2 経営目標を実現するための超上流整理法 企画段階において戦略との整合性を如何に図るか

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 ワークショップ
コンサルティング1部部长 野村 典文/PM 樋口 伸雄

【セミナーの狙い】

現在、多くのユーザ企業の経営者又は事業部門長が、自社のIT投資が、はたして企業戦略を支えるものになっているかわからないと感じている。しかし、ほとんどの情報システム部門は、その疑問に明確に答えるすべを持っていない。本セミナーは、そのような悩みを抱える情報システム部門に対し、IT企画段階における企業戦略との整合性、及びIT投資の妥当性を示す有効な整理方法を提供する。

【セミナーコンテンツ】

講義形式(パワーポイント)で説明した後、参加者を2~3名のチームに分け、簡単な演習(Excel)を実施してもらう。最後に代表1~2チームに、演習結果を発表してもらい、その場でフィードバックする。

【受講をお勧めする方】

ユーザ企業の経営企画又は情報システム部門のIT企画にたずさわる方、IT企業のコンサルテーションにたずさわる方。

【講師略歴】野村 典文：官公庁の最適化計画立案、PMO支援、及び民間企業のIT戦略立案、システム企画、情報システム部門改革等を専門とする。技術士(情報工学部門)、ITコーディネーター。
樋口 伸雄：金融、データ通信、流通業、製造業、官公庁等、幅広い分野でシステム開発のプロジェクトマネジメントを経験。直近は官公庁を中心に上流工程のマネジメントを行う。PMP®。

A-3 平時のPM力と有事のチーム力 何故プロジェクトにチームビルディングが必要なのか

法政大学兼任講師 松尾谷 徹
富士通株式会社 松田 浩一
フェリカネットワークス株式会社 増田 礼子

SIG

【セミナーの狙い】

乱暴な分類ですが、想定した活動に沿って仕事を進めることが出来る「平時」と、その場に至らなければ活動が詳細化できない「有事」とに分けて、その割合<平有比>を考える。平有比が95:5位なら、製造業のようなプロセスの標準化と予実管理が有効である。しかし、平有比が8:2位に下がると予実管理は破綻し、6:4位になると野球やサッカーのチームのように、チーム力の優劣が支配的になる。ITプロジェクトの平有比の分散は大きく、新技術やステークホルダが大きく影響している。ここでは、有事の対応力に着目し、チームビルディングとリーダーシップを中心に、考え方を事例と共に解説する。

【セミナーコンテンツ】

PS研究会/IT-SIG MM4の研究成果、チームビルディング関連

【受講をお勧めする方】

予実管理や規範的なPMに限界を感じる方、チーム力に関心のある方

【講師略歴】PS研究会：2002年設立のプロジェクトにおけるメンバーシップ(パートナー満足)に関する研究を行う任意団体
MM4:PS研究会の下部WG(IT-SIG所属)としてプロジェクト成功への貢献を狙う
松尾谷 徹：PS研究会代表 (有)テック工学研究所代表
松田 浩一：MM4代表 富士通株式会社 第一社会基盤 NTTシステム事業部
増田 礼子：フェリカネットワークス株式会社 コアテクノロジー開発部

A-4 実践!なぜなぜ5回(階) 目から鱗が落ち、隠れた原因が見えた

株式会社富士通アドバンスエンジニアリング 小原 由紀夫
株式会社富士通ミッションクリティカルシステムズ 尾崎 康二

SIG

【セミナーの狙い】

IT-SIG内TPSに学ぶPM-WGでは、トヨタ生産方式(TPS)で適用される「なぜなぜ5回」について工場とICTプロジェクトの差異を踏まえて、①問題識別、②なぜなぜ5階、③真因の検証の3つのフェーズを体系化した。なぜを繰り返した分析に不満を持つ者がいた。再度、問題を分解し、なぜ+5つの質問で、動詞を変えて5つの階層を、現場の私から管理者、組織へ深堀した。そして、目から鱗が落ち、今まで隠れていた原因が見えた。なぜなぜ5回(階)の実践、体系と考え方を紹介し、皆様の「なぜなぜ5回」へ貢献する。

【セミナーコンテンツ】

1. 報告は終わった
2. 隠れた原因が見えた
3. なぜなぜ5回(階)体系
4. 価値共有

【受講をお勧めする方】

1. ICT関連のPM、リーダー
2. ICT企業の経営層、部課長
3. TPSに興味がある方

【講師略歴】小原 由紀夫：シニア・プロフェッショナル。工場システム構築プロジェクトの経験を生かし、グローバルPMメソッドとTPSを普及・支援している。PMP®。PMAJ-IT-SIG「TPSに学ぶPM-WG」主査。米国ケイデンスマネジメント社認定講師。
尾崎 康二：SI事業部第一PMセル 部長。大規模システム開発プロジェクトでプロジェクトマネージャーを経験。PMP®。「TPSに学ぶPM-WG」メンバー。

A-5 アウトプットを最大にする「三つの秘策」 「坂の上の雲」から学ぶプログラムマネジメント

株式会社 ロゴ
代表取締役社長 津曲 公二

【セミナーの狙い】

『坂の上の雲』は大国ロシアに立ち向かった明治期の先輩たちを描いた司馬遼太郎の代表作として名高い歴史物語である。当時は兵卒も粒ぞろいであったが将校も優れていた。本セミナーでは、組織のアウトプットを最大にするための、TOCによるPM「クリティカルチェーン」の適用法を解説する。また、最新のPMソフトの活用も含め制約条件の観点からアプローチする実践的なやり方として、ビジネス組織における「将校」の役割がカギになることを知ってもらおう。

【セミナーコンテンツ】

1. 『坂の上の雲』に見る常識のウソ、今と昔
2. アウトプットを最大にする「三つの秘策」
3. 消耗戦から脱出する
4. 変革の時代、今こそチャンス

【受講をお勧めする方】

経営陣と現場をストレスフリーにしたい部門長やプロジェクトマネージャー

【講師略歴】日産自動車(株)にて、生産技術・原価管理・パートナー新商品開発などを経て、2003年(株)ロゴを設立、現職。PMを我が国のビジネスカルチャーにフィットするよう「人間中心の科学的仕事術の体系」として展開。2012年より東京都市大学(旧武蔵工業大学)講師として「正しい仕事の進め方」を伝えている。近著に「人生に役立つ『坂の上の雲』名言集」、「実践!ものづくりイノベーション」など。

A-7 論語とプロジェクト 論語に学ぶプロジェクトの人間学

安岡活学塾常任講師 青柳 浩明
プラネット株式会社エグゼクティブ・コンサルタント 浅見 淳一

【セミナーの狙い】

プロジェクトのトラブルの多くは人間関係が原因となって発生している。そうした状況を改善するためには、PM手法の技法と知識だけでは限界がある。プロジェクトに取り組むうえでの考え方や姿勢など、人として芯となる思想が不可欠となる。芯となる思想の一つとして、かつて日本には「論語」があった。近年、論語の関心が高くなっているのは、不安定で過酷な時代の中、心のよりどころとなる思想を多くの人が求めているからに他ならない。当セミナーでは、プロジェクトマネジメントを実施するうえで必要な考え方や心構えを論語の言葉を通して学ぶ。

【セミナーコンテンツ】

- ・プロジェクトを進めるうえでの「勘所」と「心構え」
- ・論語に学ぶプロジェクトマネジメント

【受講をお勧めする方】

プロジェクトに携わる方、論語に関心のあるビジネスパーソン

【講師略歴】浅見 淳一：富士ゼロックス(株)と富士ゼロックス総合研究所で営業教育、SE教育、PM研修に従事する。2011年営業力強化のコンサル・研修の専門会社、天S株式会社設立。
青柳 浩明：安岡活学塾常任講師、財団法人岩崎育英文化財団事務局長。父、師匠の下で40年以上に亘り「論語」を学び続け、20年以上に亘るPM・経営企画等のビジネスキャリアに裏打ちされた「ビジネス論語」を企業や団体等で伝えている。

A-6 グローバル競争下におけるBDメソッド P2Mスキルの発展形としての案件獲得の定石

シップレイジャパン株式会社
首席コンサルタント 北村 和彦

【セミナーの狙い】

P2Mスキルの発展形としての勝率の高いビジネスデベロップメントマネジメントについて解説する。今日では、欧米においてスタンダードとなりつつあるキャプチャーコンセプトとP2Mとのフィロソフィーの類似性に着目しつつ、その概要を説明するとともに、メソッドのキーコンセプトについて、例示を交えて解説する。

【セミナーコンテンツ】

1. キャプチャーコンセプト概要
2. P2Mとのフィロソフィーの類似性
3. メソッドの基礎知識
4. メソッドのキーコンセプト解説

【受講をお勧めする方】

プロジェクトマネージャーとして活躍している方で、将来、ビジネス拡大を担う人材。PMの育成を考える人材開発担当者。ビジネスデベロップメント、組織開発担当者。

【講師略歴】

1960年生まれ。慶応義塾大学法学部法律学科卒。
アクセンチュア パートナー、セビエント株式会社バイスプレジデントを経て、独立。2002年ドリームスキルパートナーズ設立。
2009年 シップレイジャパン株式会社設立、2010年よりシップレイジャパン株式会社首席コンサルタントを務める。

A-8 「納品しない受託開発」にみるソフトウェア受託開発の未来 IT投資に対するソフトウェアの価値を最大化できるビジネスモデルとは

株式会社ソニックガーデン
代表取締役 倉貫 義人

【セミナーの狙い】

ソフトウェア開発のアウトソーシングにおける多くの問題は、開発手法やマネジメントの工夫では解決しない。その問題の根本にあるのは、人月見積りによる一括請負というビジネスモデルにあるからである。このセミナーを通じて、ビジネスモデルを変えることで、解決出来る問題があるということについて理解できる。

【セミナーコンテンツ】

本セミナーでは、ソフトウェア開発における問題をビジネスモデルを変えることで解決してきた事例をもとに、「一括での受託開発」以外の選択肢としてのビジネスモデル「納品しない受託開発」について紹介する。

【受講をお勧めする方】

人月ビジネスに課題を感じている経営者

【講師略歴】アジャイル、Ruby、クラウドを得意とするソフトウェア企業ソニックガーデンの代表。大手Sierにてプログラマやマネージャとして経験を積んだのち、2009年に「SonicGarden」を立ち上げる。また、日本XPユーザ会の代表をつとめるなどアジャイルの普及を行ってきた。現在は「心はプログラマ、仕事は経営者」がモットーにリスタートアップを自ら実践中。
ブログ：http://kuranuki.sonicgarden.jp/

2日目(9月7日午前10:00~) セッション概要-II

A-9 そのとき行動できる人を創るPM 事例を読み解く

システム運用コンサルタント
岡崎 博之

【セミナーの狙い】

検知した兆候・事象を最悪の事態に至らせないために必要となるのは『人の行動』である。

そして最悪の事態に至らせてしまうのも『人の行動』である。

この差はどこから生まれるのだろうか？

迅速に適切な行動を可能にするための活動を事例をもちいて紹介する。

【セミナーコンテンツ】

1. 重大障害/事故 事例検討
2. システム運用プロセスと実際の行動
3. 行動を可能にする取り組み
4. 実践事例紹介
5. まとめ

【受講をお勧めする方】

システム保守・運用に関わるリーダー・責任者

システム保守・運用に関わるSE(運用設計、運用マニュアル作成、運用教育)

【講師略歴】

システム運用コンサルタント
1956年富山県生まれ。石川高専、大阪府立大学で電気工学を学び、東京工業大学大学院で半導体レーザの周波数安定化を研究。日本HPにて計測システム開発、CAD(電子回路)SE、技術(UUNIXシステム管理・ネットワーク管理)講師、医療機器(超音波診断装置)営業を経験。電子部品開発会社のIT部門担当、データセンターSEを経て現在システム運用コンサルタントに従事。PMAJ会員。

A-10 部下や後輩を効率よく効果的に育てる 人を育て、自分も育ち、チーム全体の力を向上する

グローバル ナレッジ ネットワーク株式会社
人材教育コンサルタント 田中 淳子 **ワークショップ**

【セミナーの狙い】

若手を早く一人前にするためにマネジャーやリーダーが考えるべきこと、なすべきことを演習も交えて具体的に学ぶ。

【セミナーコンテンツ】

若手をいかに早く一人前に育て、戦力とするか、その結果、チーム力をどう向上するかはマネジャーやリーダーの課題の一つである。また、若手を育てることは自分自身の成長にも大きく役立つものである。

このセミナーでは、若手を育てる際の考え方から育成指導に関する具体的なノウハウまでを自身の成長と絡め学習する。

以下の内容を扱う予定である。「仕事の価値観や取り組む姿勢の伝え方」「メンバのやる気を高め維持する方法」「効果的なフィードバックの仕方(褒め方、叱り方)など」、「若手指導を通じた自身の成長ポイント」など。演習あり。

【受講をお勧めする方】

部下や後輩の育成指導にあたっている方。若手育成に興味、関心が高い方。

【講師略歴】1986年日本DEC入社。1996年グローバルナレッジネットワーク入社。20年以上にわたり、ヒューマンスキル分野での人材育成に携わる。近年は各企業の若手指導制度である「OJT制度」の支援に力を入れている。著書「はじめての後輩指導」(日本経団連出版)「速効!SEのためのコミュニケーション実践塾」(日経BP社)。ブログ:「田中淳子の“大人の学び”支援隊!」Twitter/Facebook: TanakaLaJunko

A-11 複雑な問題に挑むリーダーの思考と対話 本当はもっと創造的に解決できませんか!?

オープン・ウイイル 代表 中村 文彦
株式会社アネゴ企画 代表取締役 上田 雅美 **ワークショップ**

【セミナーの狙い】

我々の周りで発生している問題は複雑化している。これらの問題を本質的に解決するためには、すべての関係者が互いの立場を理解し協働する必要がある。ところが多くの場合、各関係者は、他者の立場を深く理解せず、自分の役割を限定的に捉え、問題を表面的に定義してしまう。その結果、解決したように見えても課題が残ったり、意図せぬ悲劇を招いたりしてしまう。問題解決を進めるためには、各関係者が他者に共感し創造的に思考する必要がある。

この講座においては、実際に発生した問題事例について受講者同士で話し合うことで、本質的な解決に向かうための関係者の関係性を考察し、その考察を自分自身の体験に重ねてふりかえることを狙いとする。

【セミナーコンテンツ】

創造的な問題解決を実現する思考様式と行動様式

【受講をお勧めする方】

創造的な問題解決を目指す方(初心者歓迎)

【講師略歴】中村 文彦: オープン・ウイイル 代表。中小企業診断士。IT系ベンチャーに入社し、プログラマー・プロジェクト営業・組織人材開発に従事。現在は独立して経営コンサルタント業を行う。
上田 雅美: (株)アネゴ企画 代表取締役。商社総務部勤務・PCインストラクター・SEを経て独立。2008年アネゴ企画を設立。現在はエクゼクティブ中心にコーチングを行う傍ら、企業内コーチの育成や、執筆等を行う。

2日目(9月7日午後13:45~) セッション概要-I

B-1 PMBOK®ガイド第4版概要解説 PMBOK®ガイド第4版によるプロジェクトマネジメント知識体系の解説

PFUアプリケーションズ株式会社
高橋 政孝 **PMP**

【セミナーの狙い】

PMBOK®ガイドは版を重ねて第4版となり、内容はますます洗練されてきた。PMP®取得者は38万人を越え、プロジェクトマネジメント知識の標準として世界に広く認められてきている。

本セミナーでは、PMBOK®ガイド第4版を解説したのち、仮想プロジェクトを元にPMBOK®ガイドをどのように適用させるか当てはめながら解説して受講者のプロジェクトマネジメントの実践に役立てて頂くことを目的としている。

【セミナーコンテンツ】

PMBOK®ガイドのフレームワーク、9つの知識エリア、5つのプロセス群、42のプロセスの概要と位置づけの解説。

【受講をお勧めする方】

PMBOK®ガイドの内容を知りたい方、PMP®取得を目指す方、プロジェクト・マネジャー、プロジェクト・リーダーの方。

【講師略歴】1992年に株式会社PFUに入社し、現PFUアプリケーションズへ出向中。ネットワーク監視ソフトウェア製品開発、携帯向け音楽配信ライセンス規格開発、検疫ネットワーク開発といったプロダクト系プロジェクトやフィールドSEとして受託開発系プロジェクトのプロジェクトマネージャとして従事している。日本プロジェクトマネジメント協会会員、PMP®。

B-3 ICT分野への実践的P2M適用について P2Mハンドブックの解説

株式会社富士通アドバンスソリューションズ
第四ソリューション事業部 部長 服部 雅臣 **SIG**

【セミナーの狙い】

新たに作成された「P2Mハンドブック」を解説する。本ハンドブックは、難解と言われる「P2M」を、ICT業界向けに平易に解説し、今後さらなる普及を目的に作成された。

昨今のシステム開発は、大規模・複雑・高度化しており、単なるQCDコントロールのマネジメント手法では対応が困難になってきている。超上流での戦略立案、新しいビジネスモデルの検討及び、リスクの高いプロジェクトに挑戦する場合に有利であるマネジメント手法として、「P2M」を解説する。

【セミナーコンテンツ】

1. P2Mの概要(マネジメント体系)
2. P2Mの特長
3. P2Mと他マネジメントの比較
4. P2M適用事例 等

【受講をお勧めする方】

ICT分野に従事するユーザ企業、ベンダー企業双方の事業戦略の推進責任者及び、開発プロマネ責任者。

【講師略歴】富士通株式会社に入社以降、主に金融機関向け開発の、システムエンジニア、プロジェクトマネージャを歴任。2010年以降、PMOの立場でプロジェクトを牽引。同時に、開発プロセスの標準化、効率化改善等に取り組んでいる。一方、プロマネ育成の講師を勤めるとともに、PMAJでのIT-SIGメンバーとして、今回P2Mハンドブック執筆にも参画。

B-2 「場」の発見 暗黙要件を見つける方法論

アンリツ株式会社 根上 勇一
株式会社イネーブル・ツリー 板倉 稔 **SIG**

【セミナーの狙い】

システム開発を経験した者なら誰でも、要件定義の漏れが後で大きな問題になった経験があるのではなからうか。「知る人ぞ知る人から要件を聞き出す」やり方から、「方法論で要件(を生ずる場)を見つけ出す」様にしたい。その方法論としてG2BizMo(現地現物ビジネス・モデリング)をやってみる。

G2BizMoによって、管理対象、状態、イベント、処理を使い分けて、条件分岐図でなく状態遷移図を描き、状態遷移マトリクスを描けるようにする。

【セミナーコンテンツ】

- ・要件を発見する方法論G2BizMo
- ・管理対象のライフサイクルとしての状態遷移図
- ・状態遷移図のレビュー方法
- ・状態遷移マトリクス
- ・状態遷移マトリクスでの掛け算による検証

【受講をお勧めする方】

要件定義の品質を上げたい方。

【講師略歴】根上 勇一: 1992年アンリツ(株)入社以来、携帯電話開発用計測器において、各種通信規格のプロトコルスタックの開発に従事。現在は、開発部のプロジェクトマネージャを務める。
板倉 稔: 1967年から、100万円から100億円を超える幅広いコンピュータシステム開発プロジェクトで、システム開発プロジェクトの様々な役割を果たしてきた。現場の体験を法則にすることが興味。

B-4 PMのための“Dress for success” イメージマネジメント(印象管理)による自己開発方法

株式会社パーソナルコンサルティング
代表取締役 イメージコンサルタント 鶏内 敏江

【セミナーの狙い】

“イメージマネジメント(印象管理)”は自分をブランディングするツール。人のイメージ(印象)を構成する“外見・振舞い・コミュニケーション”の3つの要素から、特に非言語コミュニケーションによるパーソナルスタイルのつくり方をご紹介します。

PMの自己開発ツールとしてイメージマネジメント(印象管理)を活用し、自己演出力やセルフブランディング能力を磨いてみませんか? 国際イメージコンサルタントがワークを通して自己開発のヒントをお伝えします。

【セミナーコンテンツ】

- ・PMに必須のイメージマネジメント(印象管理)
- ・パーソナルカラー(似合う色)とセルフチェック
- ・パーソナルスタイルのつくり方

【受講をお勧めする方】

- ・自分をブランディングし価値を高めたい方
- ・より良い人間関係を築くためにコミュニケーション能力を向上させたい方

【講師略歴】全日本空輪(株)を経て、カウンセリング、接客講師、人材育成に従事。国際イメージコンサルタント協会(本部:米国)所属イメージコンサルタント/産業カウンセラー/キャリアコンサルタント/交流分析士。外見・内面両面へ、カウンセラーならではのアプローチでイメージ(印象)に関するコンサルティングを展開。個人、企業、学校等へセッション・セミナーを実施。大学等での講義も担当中。

B-5 「デザインの思考」の必然性と素晴らしさ 頭で考えるばかりでなく、「身体(からだ)」で考えてみよう

株式会社GKデザイン総研広島
代表取締役社長 山田 晃三

【セミナーの狙い】

かつて人類は道具と言語を獲得して、自然から切り離され、ヒトになった。道具は科学技術の進歩によって高度化し、多くの製品・装置・建築・都市を築くに至った。言語はヒトのコミュニケーション能力を極度に高め、人と人、人と社会の関係を強固なものとした。こうして人類は、この地球上の優生種として君臨することになった。他の生き物たちとの決定的な違いは、高度な頭脳を持ち、合理的で安全な都市に暮らしはじめたことである。いっぽうで、失ったものがある。それは自らの内にある自然であり、感性だ。身体(からだ)で感じ、身体で考え、身体をもって行動するセンスを、いま一度取りもどしてみよう。強く生きるとは何か、考えてみたい。

【セミナーコンテンツ】

- 不自然 ●生命 ●サイン ●時間 ●空間 ●美 ●想像力
- コンセプト ●プレゼンテーション ●スタイル ●かけがえのなさ

【講師略歴】1954年愛知県生まれ。愛知県立芸術大学美術学部卒。GKインダストリアルデザイン研究所(現GKデザイン機構)入所。92年GKとマツダ等との合併によるGKデザイン総研広島に移籍。専務取締役を経て現在に至る。公共交通や工業デザインに携わり、総合的視点を持って活動している。日本インダストリアルデザイナー協会理事。日本グッドデザイン賞(Gマーク)審査委員。日本デザイン機構、日本道具学会会員。

B-7 “本音”の対話でチームを変える プロジェクト現場におけるアサーティブコミュニケーションのすすめ

アイシンク株式会社
研究開発部 丸山 奈緒子

【セミナーの狙い】

プロジェクトマネジャーは、メンバーの仕事の仕方や言動に対して、ときには「注意」をしなければならないときがある。ところが言いにくいことを口にする不安から、つい私たちはロジックで説き伏せてしまいがちになる。マネジャーの本音が見えず、道理と論理で責められたメンバーは、行動を変えるところかマネジャーに対して心を閉ざす結果となってしまふ。ここではこのような距離を生む一方通行の「説得」から、メンバーと心を通わす「対話」への転換点として、「本音を話す」ことの重要性をお伝えしたい。

【セミナーコンテンツ】

- ・コミュニケーションにおける「北風と太陽」
- ・“本音”の中身とは…隠された感情に気づく
- ・自分の身近なケースを題材にした「伝える」実践

【受講をお勧めする方】

- ・メンバーとのコミュニケーションを改善したいプロジェクトマネジャー

【講師略歴】桜美林大学大学院心理学研究科健康心理学卒。アイシンク(株)にて心理学をベースにしたヒューマンスキル系講座を開発、講師として活躍している。開発した講座はストレスマネジメント、アサーション、コーチング、交流分析などで、心理学の理論的背景を持ちながらも、プロジェクトの現場で役立つ実践的なスキルを備えた講座となっており、いずれも顧客から高い評価を得ている。

B-6 オープンソースがグローバル人材を育成 プロジェクト運営、品質管理、ビジネスから学ぶ

MKTインターナショナル株式会社
代表取締役社長 赤井 誠

【セミナーの狙い】

クラウド時代を支えるオープンソースソフトウェア(OSS)にまつわる最大の誤解は、「OSSはすべてタダである」「すべてボランティアで開発している」というものです。それらの誤解を解くとともに、そのビジネスモデルと、企業でのOSS導入拡大の背景を探ります。本セミナーでは、特に企業向けに導入されているOSS製品の品質管理、販売プロセスを紹介することで、OSSプロジェクトから学べるグローバル人材の育成方法のヒントを紹介します。

【セミナーコンテンツ】

1. OSSとはどういうものか?
2. OSSのビジネスモデル
3. OSSの品質管理
4. グローバル企業の交渉術
5. OSSプロジェクトから学べるグローバル人材育成のヒントを簡単なワークショップを交えて、紹介します。

【受講をお勧めする方】

OSSやグローバル人材育成に興味あるPM・リーダー。

【講師略歴】日本ビューレット・バカード株式会社に入社後、ソフトウェア開発に従事。その後、マーケティングに移動し、日本HPをLinux No.1ベンダーに導く。2011年4月に起業し、ITビジネス、特に企業向けITビジネスの経営、事業開発およびマーケティング事業を支援。キャリア開発アドバイザー。IT業界のキャリアデザインを支援する会「世話人」。

B-8 アジャイルプロジェクトマネジメントの実際 “アジャイルプロジェクト”で迷走しないために

株式会社永和システムマネジメント
サービスプロバイディング事業部 主任 市谷 聡啓

【セミナーの狙い】

昨今の日本でも知名度を増してきたアジャイル開発。アジャイル開発を求める声は、開発者のみならず、システムの発注サイドからも高まってきています。しかし、プロジェクトを実際に進めていくには様々な留意すべき事柄があります。本セミナーでは、開発プロジェクトの事例をベースに、その実践知についてお話します。

【セミナーコンテンツ】

1. アジャイルプロジェクトの運営
2. アジャイル開発を実現する契約スキーム
3. ユーザーストーリーによって駆動するアジャイルプロジェクト

【受講をお勧めする方】

プロジェクトマネジャー、プロジェクトリーダ、情報システム部門の開発担当者

【講師略歴】SIとサービス開発、性質の異なるシステム開発の経験を経て、2011年より現職。利用者にとって価値をもたらすシステム開発を追求するべく、アジャイルな開発と向き合い続けている。システム開発を取り巻く環境の改善や推進を目的に開発コミュニティ(DevLOVE)を2008年から立上げ、主催している。

2日目(9月7日午後13:45~) セッション概要 - II

B-9 プロジェクトを成功に導くゲームストーミング 短時間で創造的な成果を得るためには? 会議やプロジェクトを創造的にするための方法論

国際大学GLOCOM
主幹研究員 野村 恭彦

【セミナーの狙い】

「仕事を効率的プロセスから創造的ゲームに変える」ことを体感し、創造的なプロジェクト推進能力を高めること

【セミナーコンテンツ】

ゲームストーミングの理論的背景、およびゲームストーミング体験

【受講をお勧めする方】

プロジェクトリーダー、マネジャー、事務局などを担う方々

【講師略歴】博士(工学)。慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程修了。富士ゼロックス株式会社に入社後、総合研究所、コーポレート戦略部を経て、社内でナレッジ・サービス事業(ナレッジ・ダイナミクス・イニシアティブ=KDI)の立上げに参画。国際大学GLOCOM主幹研究員、イノベーション行動科学プロジェクトリーダー。K.I.T. 虎ノ門大学院客員教授。

B-11 グローバル化成功への組織戦略、人材戦略の本質を考える 組織イノベーションの4つの視点による

株式会社アイ・ティ・イノベーション
代表取締役社長 林 衛

【セミナーの狙い】

組織のグローバル化成功の重点を、組織戦略、望ましい人材像、育成、考え方の観点から考察し、組織戦略と人材戦略を明らかにする。さまざまな事象を例にとり、組織や人が今後どのように変化しなければならないのかについて本質に迫る。

【セミナーコンテンツ】

- 一、着眼大局(本質を見極め、広く見据え、俊敏実行)
- 二、和魂洋才(異文化に学ぶ、強い人を創る)
- 三、単純明快(かわりやすいビジョン、戦略を示す)
- 四、不易流行(世界に通用する思考、方法論を備える)

【受講をお勧めする方】

グローバルビジネスに携わる経営者、管理者、あるいは人材育成の担当者

【講師略歴】1998年7月IT革新を専門に行うコンサルティング会社(株式会社アイ・ティ・イノベーション)を設立。現在同社代表取締役社長。名古屋工業大学非常勤講師。大連東軟信息学院客員教授。ソフトウェアエンジニアリング、プロジェクトマネジメント、ビジネスアナリシスの分野において理論および実践の両面で経験を積む。アジアを中心に、インド、中国にてグローバル人材育成教育に取り組んでいる。

B-10 OJTを機能させる仕事の伝承力 仕事の勘所にある「暗黙知」の見える化と伝え方

株式会社オイコス
メンター 依田 真門

【セミナーの狙い】

本来人には仕事で培われた素晴らしい才能、能力が備わっています。しかしそうした才能、能力もすべてが言語化できるものではありません。言語化しづらい領域の才能や能力に関してはその事を他者に伝えることは非常に難しいものです。本プログラムでは、この言語化しづらい領域の才能や、能力の存在を明らかにし、自らに内在する仕事力(暗黙知)に気づくことで、自らの価値を再発見し、自分の仕事力を後輩や、部下に伝えていくか。仕事の勘所を伝承する力について学んでいただきます。

【セミナーコンテンツ】

- ・仕事力が形式知と暗黙知から構成されていることを理解する。
- ・自分自身の仕事を分類・整理し、自分自身の仕事力の形成のメカニズムを理解する。
- ・仕事力を伝承するための考え方と方法を学ぶ。

【受講をお勧めする方】

PL、PMの方、OJTや人材育成に関心のある方

【講師略歴】早稲田大学理工学部(学士)、立教大学大学院 異文化コミュニケーション研究科(修士)卒業。20年の商社勤務の後独立。製鐵機械、金属加工設備などのプラント輸出に携わり、技術伝承の現場に数多く立ち会う。出身が技術畑である事や実践的なコミュニケーションに関心があつた事から“伝承”の問題を理論と実践の両面で追及してきた。研修では独自の方法論で受講生の学習と気づきを促す。